

# 猫免疫不全ウイルス(FIV) 感染症

別名：猫エイズ

## 【原因】

猫免疫不全ウイルス（FIV）は人のエイズウイルス（HIV）と同類のレンチウイルスですが、猫固有のウイルスで猫以外には感染しません。猫は屋外でのけんかによる咬み傷などから感染することが多いです。（→ウイルスを持った猫の唾液が血液中に入ると感染します）ウイルスは比較的弱いもので、アルコール、洗剤などで簡単に死滅します。交尾や接触などで感染することはまれです。

## 【特徴】

このウイルスはひとたび感染すると、猫の体内から消えることはまずありません。感染の診断は血液中の抗体検査で行われます。感染した猫は、一生抗体が陽性になります。（例外として子猫の場合、抗体陽性であっても生後6か月以内に陰性になることもあります。）

感染は外に出る猫に圧倒的に多く、とくに雄に多いです。数年以上の経過で猫後天性免疫不全症候群（猫エイズ）がおこり、発症した場合、致死率は高いですが、無症状のまま生存する猫もかなり存在します。

## 【症状】

感染から約1ヶ月で抗体検査結果が陽性になります。

このウイルスは体内に入るとリンパ節へ流れつき、徐々に抵抗力を落とします。ウイルスが悪さをするというより、体の抵抗力が落ちたことで、今まで影響のなかったほかの細菌やウイルスからも影響を受けるようになって（エイズ発症）症状が悪化します。

→口内炎、歯肉炎、体重減少、持続性下痢、慢性の鼻かぜ、リンパ節の腫れなど

## ★ FIV 感染の経過★

- ①急性期（FIV 感染直後）：発熱やリンパ節の腫れ（1ヶ月～1年）
- ②無症状キャリア期：無症状（平均2～4年）
- ③PGL 期：全身のリンパ節の腫れ（1～2ヶ月）
- ④エイズ関連症候群：慢性疾患（口内炎、貧血など）（1年以上）
- ⑤エイズ期：重い感染症、削瘦（さくそう：体重が減少し、かなり痩せている状態）（数ヶ月）

## 【治療と予防】

一般的な治療は免疫力を高めるためのインターフェロン療法や、細菌の二次感染や他の現在発症している症状に対症療法（抗生物質の投与、補液、輸液療法など）を行います。口内炎に対しては、カリシウイルスの持続感染と口腔内細菌の両方が原因になっている可能性を考え、インターフェロンや抗生物質などを使用しますが、完治させることは難しいです。

現在 FIV に対するワクチンが開発され、当院で接種することも可能です。しかし、感染の予防に最も良い方法は、猫を完全室内飼いにすることです。避妊・去勢手術をすることで、外へ出たい欲求を少しでも減らすことも予防につながります。

※ 屋外から猫を家庭に入れる場合には、必ず検査を行いましょう

## ◎ 感染猫との生活

- ・ 無症状であってもウイルスを持っているので極力外に出さないようにしましょう。気候の変化やケンカなどで体調をくずしやすく、他の猫への感染源ともなってしまいます。
- ・ 家に同居猫がいる場合、必ず感染するというものではありませんが、できれば別々の部屋で飼いましょう。
- ・ 温かい部屋でバランスのとれた食餌を与え、ストレスのない生活をさせることで寿命は伸ばせるといわれています
- ・ 体調が悪そうなときは、早めに受診するようにしてください。